御前ヶ遊窟山行

2013.10.28（月）男３名、女５名で

今回は私にとって、大変反省点の多い山行になりました。何とか全員無事に下山できて、結果オーライではありましたが。この山は危険だと言う認識で当初案はソウケイ新道～御前ヶ遊窟～山頂（846M）～井戸小屋山（902M）～新設された尾根道～林道～登山口であった。ネットで種々検索した結果、シジミ沢コースのスラブ登りは危険でルート探しでも時間がとられそうでダメ、ソウケイ新道の下りも危険な感じ（登りは何とかなりそうだが）で安全面から井戸小屋山～前から一部の人が利用していた尾根道が歩けるようになったとの情報（事前に地元にも確認した）で下山との作戦でした。２７日に前泊した男３人の打ち合わせで、男２名（Ｕ・Ｓさん）とこの登山の言い出しっぺのＯさんが希望すればその３名は別行動でジジミ沢～ソウケイ新道の（本来的なコース）コースで、私と他の女性は当初案の（安全コース）コースでとの結論に至りました。集合時に初対面のＨさんがシジミ沢コースで登山した事があるとの事で情報を聞くと「コースはハッキリしている等」。それで、私の考えが一気に変わってしまった。彼女を除く女性陣４名は私と一緒に登山の経験がある。３人とは今年　不帰のキレット～白馬三山、天狗原～大キレット～北穂～奥穂～前穂～岳沢の山行をした。もう一人の人とは　唐松頂上山荘～餓鬼山～祖母谷温泉のロングコースを歩いたので体力的にも大丈夫では？との気持ちになってしまったのだ。天候も良いし。ただコースを変更するには、準備が不足していた。ツエルトは持参したが、ロープ、参考資料は持参していない。何時もは必ずネットの情報をコピーして持参するのだが、今回は簡単な地図とメモのみ。日の短い時期でかつ出発時間も遅い。幸いＵさんがロープを持参していたので、最低限の装備にはなったが。反省しました。２グループに分かれるべきでした。皆さんにはご迷惑をお掛けしました。

馬下保養センター　7：35～8：40　登山口　8：50～9：05　渡渉点～9：30　ソウケイ新道分岐　9：43～11：00　シジミ沢入り口　11：17～13：50　御前ヶ遊窟（昼食）14：30～17：30　渡渉地点でルート探し　18：05～19：40　登山口～20：30　馬下保養センター

登山届記帳

登山口で登山届に記帳し歩き始める。例年なら紅葉の真っ最中の筈だが今年は遅れている。最近の降雨もあり湿っぽい登山道を歩く。案の定渡渉点では足場の石を並べないと靴が濡れる。（シジミ沢の渡渉でも同じ作業をした）歩く人が少ないので道は細い。シジミ沢の入り口は滝と大きな淵があるので分かる。40ＣＭ位の大イワナが釣れそうだ。

案内図

スラブの登りもピンクテープとペンキ印が要所にあるので迷う事は無い。ネットでは分かりにくい・迷ったとの記述が多いが。ただ上部になると斜度がきつくなって上手にコース取りをしないとロープが必要になる。落ちれば命が無い登りの箇所がある。登山経験が豊富で普通の体力があれば天気の良い時は問題が無いと思います。

鍬の沢を見下ろす道

シジミ沢入り口

高所恐怖症の人には向かないです。午前ヶ遊窟の到着が遅れて下山路をどうするかの判断になる。17：00 には暗くなる。Ｔさんが登りで体力を消耗している。案内図ではソウケイ新道を下ると 1：30 でタツミ沢入り口に、そこから２５分で登山口である。危険度は高くなるが、ここから４５分の登りで井戸小屋山に向かうよりは、体力的には下り坂のソウケイ新道の方が良いとの判断をする。各自ヘッドランプは持参している。（明るい内に井戸小屋山に登ってしまえば、新コース～林道歩きの方が分かりやすくて安全だったかも）

テープが目印

スラブの下部

中間地点

ロープが必要になる

御前ヶ遊窟を望む

登りではＵさんにお世話になったので、下山時は私がＴさんと同行する事にする。

ソウケイ新道の下りは疲れたＴさんには厳しいようで、ロープを使い休み休み下る。

御前ヶ遊窟を望む

上部の様子

急です

御前ヶ遊窟

気を付けないとフンバリが効かなくなってくるので下山時の転倒・滑落事故が多くなる。ここの下りも鎖が５か所と聞いていたが結果的には８本位あったし、斜度、ホールド・スタンスの無い厳しい箇所がある。17：00 前にヘッドランプを着用する。沢の音が段々近ずくが道は細くて分かりずらい。渡渉点に着いたがその先が不明。Ｔさんはビバーク覚悟のようだ。ツエルト・水・食糧・雨具・フリース等あるし、Ｔさんはレスキューシートを私はサバイバルシートと簡易寝袋を持参しているし気温もそれほど下がりそうもない。何よりＴさんが落ち着いているのが心強いし、このような時は動き回らない方が良いとの鉄則も口にしている。携帯は勿論圏外。しかし私はビバークは最後の手段でルート探しをもう一度やり直す。河原へ降りる手前まではハッキリしているが、その先どっちに向かっているか調べ直す。矢張り最初に目を付けた方角のようだ。渡ってみると対岸にピンクテープがある。その旨Ｔさんに伝えて下山を続ける事にする。最悪又此処へ戻ってこられるよう

にテープを要所にたらしながら。（理由はビバークには適当な場所があるから、往路の感じでは適当な場所が無いかも）私が対岸の登山道に上がったら何とヘッドランプの明かりが２つ動いている。「誰か居る」と上がりかけたＴさんに言う。あまりにも遅いので心配して戻ってきた先行組のＯ・Ｓさんの２人だ。２人の話ではここからの登山道が分かりにくいとの事でやぶを駆け上がるとシジミ沢のルートにぶつかる。登山口では携帯が通じるのは確認すみ。途中でＯさんの携帯が通話可能になったので、先行組に状況を報告してもらう。ちなみにヘッドランプを使ったのは今回同行したＵさんと毛勝山に登った時（出発時に降雨があり、どうするか様子を見たりで出発が遅れたので）以来の２回目です。案内図のコースタイムはこのコース入り口の注意書きに書かれているように「上級者向きコース」のせいか少し厳しい時間になっています。今回は時間がなくて山頂に登っていませんし、久しぶりに登山らしい登山の山だと思うので、来年又挑戦したいと思います。